

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成19年 11月14日
事業所名	グループホーム森津 つるユニット
事業所番号	2375601446
記入者名	職名 管理者 氏名 佐野美智代
連絡先電話番号	0567-65-8050

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	園芸療法草花作りなどを通じて地域の人々と交流している。ユニット会議など。	地域密着型サービスの基本方針を元に今後も取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事あるごとに理念を共有し意思統一の心がけている。職員間の会議・申し送り時などに話し合い日々のケアに役立っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会に見えた方々、近所の方々など来所の折にグループホームを理解していただけるよう配慮している。	地域住民に対して情報誌の作成をしていない。閉鎖的ではいけないので前向きに。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	役所・地域の方々、お祭りなどを通して触れ合い付き合いをつとめている。日常的な、散歩・ドライブ・買い物・喫茶レクを通して気軽に挨拶するよう努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園・小学校・高校などボランティアの方々と地元の交流を深めている。地域行事に参加している。ホームも気軽に来所できるよう交流の機会を作っている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者に何もしていない。	○	招待して茶話会などの交流会を催したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、外部評価を受け評価を生かし具体的改善に取り組んでいる。		外部評価の意義についてさらに向上できるよう改善に向け努力できるよう積極的に取り組む途中である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	調整会議に参加し、意見要望等を受け入れるようにしている。また、他の福祉施設と意見交換するようにしている		外部評価の意見を聞き更なる良い施設になるよう努める。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議に出席しサービスの質の向上に努めている。	○	地域密着の会議を実施して日程出席も難しく挫折してしまった。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状では認識不足。いまだ何もしていない		これからは額集会・研修会で学んでいく取り組みが必要である
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。	○	言葉遣い・イントネーションにも留意し防止に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に重要事項の説明を行い利用料金医療体制など十分に話し合い理解を得ている。	変え違約時には家族の同意を得ている。ホームの考え方、入所時、今後の問題点についても説明、納得を得るようにする。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・改善点について口頭・電話・文面により受付職員間で話し合い改善に向けている。	利用者の中から意見が頂戴できるように日常的に会話記録などで吸い上げていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は常に心がけ連絡を蜜にとって現状の説明に当り、理解を得るようにしている。	○ 面会時、往診時などで来所の際に家族との関係は重要視して確認を得るようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情はホームのみならず、市の公の窓口でも対応してもらえるようになっている。出された意見については職員全員に通達。改善できるように取り組んでいる。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から声・意見を良く聞いてホームの運営に生かされていると思う。	毎月一回ミーティングで意見を述べ、職員の意見・提案が運営に反映できるようにしていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕があるとまではいえないが補助的に勤務に入れる補助職員を確保している。	経験豊かな少数精鋭のスタッフを現在では確保できているが更なる余裕の人員も欲しい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り生活環境を変えず馴染みの職員の変動を少なくし代わる場合は必要最小限に抑えている。職員が交代するときは利用者の出来る限りの生活環境を変えないようにしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が同じ方針や姿勢であるよう会議や申し送りノート、リーダーからの育成に努めている。現場指導はもとより心がまえとしても常に言葉にし職員間の意思方針の統一をするように心がけている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市による福祉施設が多く集まる調整会議が行われ（月1回）相互間の交流などを深めている。研修会に職員を参加させている。ホーム内でも勉強会を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会食等を行い意見交換の場としている。不満や意見を聞き取る取り組みをしている。		職員の顔色・表情・ストレス・不満について出来る限り把握できるよう会食などの和やかな中で捉える。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	やりがいのある職場環境づくりに努力している最中である。		更なる資格の取得に向けたり日常的な努力を怠らないよう、自己のスキルアップに努める言葉をかける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族ご本人に事前に面接を行い困っている事不安な事などを聴く機会をつくり安心な受けとめをする。	会う事により双方ともに顔見知りとなり今後へとつなげる。事前面接により信頼を得るようにする。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面接をし困っている事、どのようなサービスをして欲しいかなどよく話を聴く。	信頼関係をこれから築き利用者とともに支えより良い生活ができるよう事前面接で話し合い、食い違いがないようにする。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る事はすぐにする。出来ない事は観察のうからヒントを得、方策を打ち出していくよう話し合う。	家族との間で食い違いが生じぬよう初期のころは特にこまめに連絡相談など話あうようにする。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と徐々に人間関係に馴染みながら生活の場の雰囲気を安心のあるものにしていく。	本人の安心・納得のもてるような環境づくり、スタッフとのかかわりの中で馴染み生活できるようにする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活の中で共感でき感動していくことで信頼関係を築きあげ楽しい生活を送ってもらう。	一方的な介護にならない様、見守りながら出来る事出来ない事など支援してきよく観察し快適に過ごしてもらえるよう配慮する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の喜怒哀楽から人間性を見極め御家族の方と残りの人生を有意義に過ごしていただけるよう見守り支援をしていく。		訪問されたご家族との時間を有意義なものに出来るよう（日頃の様子・ご本人の要望など）お伝えしていけたらと思う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	過去の記録も参考に現在の利用者様ご家族の関係を記録するために情報やご家族との会話からそれを察する。		普段ゆっくり出来ない家族や疎遠になっている家族に行司などのレクになるべく参加していただき施設での利用者様の様子を見ていただけたら今後の訪問にも良い影響があると思う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、利用者様との会話の中でご本人が好きな人や会いたい人の名前○○の場所・地名の言葉でおっしゃられるときは一緒に回想できるようにその時その場所に戻れるような言葉がけをする。		ご家族が訪問される時に利用者様の思いを伝えられればと思う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様のさりげない会話や行動から思いやり譲り合い支えあいの心が感じられるときがありとても幸せな気持ちを感じさせていただいている。	○	利用者様同士の会話を静かに見守ったりスタッフが中に入れていただいて橋渡しをしたり離せない方は表情やしぐさから代弁させていただいたりしてその場面・雰囲気に応じた会話や行動を心がける。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した時点で自然に疎遠な関係になるのは否めないが今までの感謝を忘れず利用者様の家族に対しては「どうか幸せな日々を送ってくださればという思い。		施設意外で顔を合わせるがあったときなど先方様もたぶん覚えてくださっていると感じたときは自然に声をかけられるのではと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動・会話・表情などからご本人が楽しいとき幸せなとき嫌なとき悲しいときの出来事を把握し、自分の価値観で判断しないようにする。	○ 言葉での会話の中からご本人の意向が分かる時は良いが出来ない方や難しい方には表情・しぐさ・雰囲気・動作などから読み取りスタッフ間でも話し合い、そのズレがないようにしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去のケース記録に目を通し暮らし方・家族の事・環境・病気などをありのままに受け入れてその方を広く深く観る。	ご家族に利用者様の家や施設などでの状態（様子）を伺ったりするのよりもよりご本人を知るために必要だと思う。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様の一人ひとりの生活リズムをスタッフが把握し残存能力を引き出せるよう愛情を持って接していく。	日頃の会話の中でその方の生きがいや何を求めているかなど考え、思いをめぐらしその希望に沿った援助をしていく。新しい発見（言葉・行動）に出会ったときは共に喜び、励ましあい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりのニーズにあったものになっている。	日々の暮らしの中で本人の為にもっと良いものがあるかを注意しながら行う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回程度見直しもかねカンファレンスを行う。	気づいたことも報告しあい、情報を常に把握する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日を通してその時間に携わったスタッフが本当に細かく丁寧に記録している。		スタッフ全員が記録に目を通し情報の共有や把握をしスタッフ同士のコミュニケーションでそれらをより良い実践や改善などの方向に持っていけるように取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護度が高くなったり新たに身体的な衰えがあったりする現状の中で御家族の要望にはとても柔軟な対応・支援を行っている。		どんな状況であっても利用者様に対しては分け隔てなく接していきたい。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	高校生との交流や幼稚園との交流を行っている。		さまざまな機関と交流を持ち、地域と密着していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療保険での訪問看護師の利用や実費での訪問入浴の利用を行ったことがある。家族・本人の希望や状況により、多サービスも含めた支援を柔軟に行えるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居や退去時等地域包括支援センターと綿密な連絡を取り合っている。必要に応じ地域包括支援センターとの共同体制をとれる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの歯医者等がある場合は家族・本人と相談の上、可能な限り行っている。家族・本人の要望には柔軟に対応している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	老年課医師がホームの主治医である。電話やメールなどで常時連絡できるようになっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が非常勤でいる。また、提携医療機関の看護師も相談に乗ってくれる。利用者に異変があった場合は直ぐに看護師に連絡、指示を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護サマーリーの作成、スタッフが頻繁に面会に行き、様子や状態を把握するように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針の説明・同意は頂いている。また、家族・医師・スタッフ間での話し合いを設け、方針の共有に努めている。		家族・ご本人にとってのよりよい終末期介護を行われるよう十分な話し合いを継続していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医・管理者・スタッフ・家族・看護師との話し合いにより当施設でできることを見極め、家族との十分な相談の上、入居者にとってよりよい方向性を模索する。スタッフが皆、利用者個々の状態を把握し、ケアの方向性を共有することに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	緩急変化によるダメージや不安を最小限に抑える。		安心して生活してもらうための引継ぎをしっかりと行う。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	義務を守り、人生の大先輩である利用者様に教えていただいている（人生とは？）という姿勢のもと接し方（言葉・行動）に気を配る。		尊厳の意を持ち〇〇サンとおよびするよう心がける。利用者様ご家族の人権を守る。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話の中で答えが出しやすい、思いが素直に述べやすい、コミュニケーション（言語手法・非言語手段）を心がける。		利用者様がスタッフや他の利用者様にすべて安心して何でも話せる雰囲気作りが必須。スタッフが心に余裕を持ち傾聴することの大切さを確認する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた時間をスタッフ人数の中でいかにその方にあつたその方らしい生活のペースを保てるか日々の暮らしの中で支援していく。		何をやるにも前後途中常に穏やかな声かけと見守りで気持ちよく生活して頂けるよう支援する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴後は髪を整えて頂くようブラシをお渡ししている。ヒゲそり、顔そりも嫌がらず声かけしながら良い雰囲気で作らせて頂いていると思う。洋服では好みや機能性を大切に洗濯時には色落ち・かたくずれに気をつける。		幸い決まった美容師に来ていただくことで利用者様一人ひとりのお名前や性格が少しずつわかって頂けるのが嬉しい。スタッフの家にあるもので使用できる衣類があればそれを着ていただくのも良いと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	薄味を基本に彩り・切り方・盛り付けなど工夫して作っている。準備（簡単な野菜の皮むき・台ふき・配膳など）も声かけて利用者さまにはできる限り手伝って頂いている。		食後は利用者様もお疲れだと思いが声かけて片づけを手伝ってもらえるよう心がける。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に目立って好き嫌いもない中でおやつはどの方も甘いものがお好き。		水分不足を感じたときはお茶に限らずご本人のお好きな飲み物で補っていくこと。おやつは市販のものが多い中で時折手作りのものをお出しするととても喜ばれ、会話の機会も増える。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者さま一人ひとりの排泄パターンをある程度つかみそれに合わせた声かけ誘導をする。利用者さまにより少し強引に・・・という場面もあるがご本人がトイレの排泄を嫌なイメージとならないような誘導が必要。	○	排泄と水分量・食事量の関係は大きいので相互に考えていく。スタッフが傍らにいて。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、1～2回おきに利用者さまのご希望や体調・身体状況によって入浴日時間を決めている。これからの季節シャワー浴では温まらない方はリフト浴も考える必要あり。		気持ちよかった、さっぱりしたとおっしゃって頂けるのが一番だが安全がもっとも大切。湯の温度・足元の安全確保・長湯の危険など声かけもわすれずにする。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転の生活にならないように昼間はなるべく起きていただくのが理想だが年齢・体調・習慣などを考慮しながら無理のないサポートしている。		居室の温度・湿度・布団の保温など睡眠・休憩が心地よくできる環境作りにも気をつけたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割を自ら理解され色々とお手伝いして下さっている。隣のユニットのレクにも参加され満足した表情で戻ってみえる。		手伝いして下さった後には必ず、ねぎらいの言葉かけをするようにする。その方に合わせたレクをもう少し考えながら取り入れたい。カラオケ・ボラなどの行事にもなるべく参加して頂けるようサポートしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は一人で欲しい菓子などを選びレジで精算することがあったが最近は買い物のレクがほとんどないため財布は持っているが現況は分からない。		人も多く広いスーパーなどでの買い物では個別にスタッフがきちんと付き支援しないとパニックになる恐れがある。社会性の保持には大切だと思うが・・・。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の幼稚園の散歩や施設内の畑や中庭などへ自力歩行又は手引歩行、身体機能低下している方は車椅子を利用して外出を支援している。また、喫茶店も手軽な外出先である。		日々の天候や利用者様の体調を十分に考慮し外気に触れ刺激を受けたり気分転換を図ることなどを目的としながら積極的に外出できるよう支援し続けたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて花見や時には遠方にドライブに出かけるなどの外出支援をしている。		故郷めぐりや観光地など普段いけない場所に外出が出来るような体制作りを整えると共に、利用者様の希望にそえるような計画を立て実施していきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との連絡を既往された場合は、スタッフが電話をしご本人と直接はなしをして頂くなどの支援をしている。		手紙やはがきなどのやり取りが出来るようなかたにはそういった支援が出来るようにしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が訪問しやすいように暖かい雰囲気作りに常に配慮し、落ち着ける空間でゆっくりと過ごしていただけるよう努めている。		面会時間など特に定めず訪問して下さった方と利用者様が楽しいひと時を送って頂けるよう気を配っていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入浴後は髪を整えて頂くようブラシをお渡ししている。ヒゲそり、顔そりも嫌がらず声かけしながら良い雰囲気で作らせて頂いていると思う。洋服では好みや機能性を大切に洗濯時には色落ち・かたくずれに気をつける。		今後も必要に応じて見極め、スタッフ全員で話し合い取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者さまの特性を知りスタッフ全員で情報を共有し連携して、利用者様の所在確認を徹底する事により鍵をかけないケアに努めている。		日中はスタッフ全員で各居室フロアに目を配り、近隣ユニットとも連携して極力鍵をかけずに利用者様を見守るよう心がける。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフが各居室に入る場合でも利用者様の所在が把握できるよう努めている。		日中はスタッフが各々の作業中であっても連携し利用者様の安全確認に努め、夜間も1時間おきに巡視を行い常に安全に配慮する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	キッチンに関しては（包丁・火気など）危険が多い箇所のため、常にきれいに片付けほぼスタッフが常駐の体制にある。		薬品や洗剤に関しては外から見えないよう管理するように努める。はさみ等スタッフが近くにつき一緒に作業をし利用者様の残存機能が低下しないように心がける。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの想定される事故を考えスタッフ間で情報を共有し未然に防ぐ対応策を話し合っている。		予測される危険について常に対処策を検討し事故防止に取り組んでいきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者様の容態急変や事故発生時の対応については定期会議の際に話し合われる。		応急処置の手当ての講習を行う事でスタッフ全員が対応できるようになる事が望ましいと思われる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練をおこなう。		地域の方にも協力していただけるような関係を築く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりえるリスクについて常に家族に説明しそのような時はどのような対策をとるか話し合いを行っている。容態の急変や発作、怪我等が起きた場合にはどのような対応をとれば最良か具体的に話し合い家族の意向にも充分耳を傾けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝定時にバイタル測定を行い、体調の変化や異変を早期発見できるよう努めている。スタッフ全員が把握するようどんな事柄でも記録に残し情報を共有できるよう徹底している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤飲や飲み忘れのないよう服薬のチェックをいれるとともに、一人ひとりに合った服薬方法を用いて確実に服薬して頂いている。		服薬状況に変化があればその都度申し送りにてスタッフ全員が把握し誤飲・飲み忘れが生じないように注意する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックをこまめに確認しおやつや水分補給時に乳製品を提供するなど便秘予防と対応に努めている。		腹部マッサージや運動なども積極的にとりいれていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後には口腔ケアを必ず実施している。ハブラシが不可能な方には綿棒を使用する等個々に合わせたケアを実施。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を細かく記入し一日を通して十分に確保できるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルがあり、ヘルパーステーション内でも見れるようになっている。	○	新しい職員に周知しておらず、研修時にきちんと読む時間を設ける。また、勉強会を開催し知識の統一を図ることも必要。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は常に清潔を保ち調理用具や食器類等も十分に洗浄・乾燥させ収納する事を徹底している。生ごみ類もこまめに処分する事や清潔な手で食品を扱うなど衛生面では充分配慮を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎日掃除を行い清潔感を保つとともに壁面にも目を引く掲示物を貼るなどして工夫をしている。花壇の手入れにも力を入れており出入りしやすい玄関になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はいつも気持ちよく使用できるよう掃除を徹底し清潔保持につとめている。季節の花を飾ったり、季節を味わえるような壁面製作を行いその作品を掲示するなどして充分季節感を出し、又家庭的雰囲気や壊さず温かみがあるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングダイニング和室など思い思いに過ごせるよう開放的な空間になっている。テレビ鑑賞やくつろぎのソファを広く置いたりベランダのウッドデッキにベンチを並べるなどしてお好きな場所で過ごしていただけるよう心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時それまで愛用していた家具や小物を持ち込んでいただいたりして、安心して過ごせる空間作りを心がけている。		行事やイベントに参加された思い出が残るよう写真を掲示したり作品を掲示したりして温かみのある玄関づくりに取り組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝清掃時には特に換気を充分に行い空気の入替えに努めている。		温湿度計をこまめにチェックし温度管理に努めると共に換気にも配慮し空気のだよみがないよう徹底していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険と思われる場所を把握しておく。		自立を促し、安心できる生活空間を築く。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	行動や失敗の原因に対する追及をしていく。		その人にとって最良なことを話し合う。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで利用者様とスタッフが外の景色を見ながら洗濯物を干したり草花のはなしをしたりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

田園ある自然のなかでのんびりとしており、ホーム内が家庭的で暖かい。食事が手作りで毎食たべても「家庭の味」で飽きない。地下菜園で採れた野菜を使用することもあり、安心して新鮮。個を大切にしており個別対応にも心がけて努めている。地域の小学校・高校・福祉施設等やボランティアとの交流がある